

2012 年 5 月 印旛手賀県立自然公園を巡るラン

基本データ

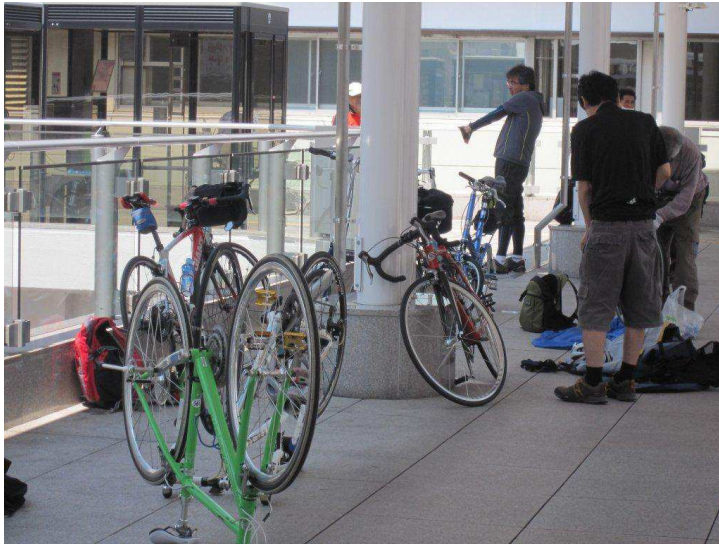
クラブラン実施日	2012 年 5 月 26 日 (土)
クラブラン名称	印旛手賀県立自然公園を巡るラン
コース概略	JR 柏駅 10:30→道の駅 10:50 (6.0 Km) →銚子屋 (昼食) 12:40 (22 Km) →コンビニサンクス 14:00 (31 Km) →山田休憩所 15:40 (47 Km) →佐倉ふるさと広場 16:15 (52 Km) →フィニッシュ JR 佐倉駅 16:45 (57 Km) 走行距離 57 Km 概算実走時間 4 時間 平均速度 14.3 Km/H GPS ログ: http://yahoo.jp/yv6oVH
集合場所	JR 柏駅東口 10:00 集合、10:30 出発
クラブラン担当者名	N 川
レポート担当者	N 川、T 崎、N 久、O 湖
参加者	第一班 N 川、O 湖、T 地、Y 野、T き、T 本 第二班 M 山、T 崎、M 野、N 久、O 橋 第三班 T 桑夫妻、S 賀、W 田 (克) (銚子屋以降参加) 計 15 名
天候	晴れ、風弱し

纏め(N 川)

詳細報告は他の報告書及び総括に記載されています。反省点として、ゴールデンウィーク時の下見ランで走行出来たサイクリングコースの一部が工事で通行止めの為、一般道を走る事となり、参加者に迷惑を掛けてしまった。大震災で破損したサイクリングロード修復の予算が遅ればせながら認められたのでは。



レポート(T 崎)



今日は、絶好のサイクリング日和。梅雨前の貴重な晴天。今日がクラブランでよかった。さて、日頃の行いが良いのは誰でしょう？

今回は時間に余裕があるためか、皆さん早くから集合されているような気が…(いつもは9:00集合だったりしますから。今日は余裕でしょうか?)駅前広場は輪行組立には余裕のある広場。大変助かりました。

今回初参加の T 地さん、「次回も参加したい」となるでしょうか？

出発前ブレーキの調子を O 橋さんに調整していただく。利きが悪いと思っていたのは、車輪がロックしていたためと判明。感謝です、O 橋さん。

写真撮影後、ミーティング。N 川リーダーのルート説明に続き、O 湖さんより走り方の注意。15 名の参加につき、3 班編成。



広場を出発、市街地を抜け手賀沼に。右手に田植えの終わった水田。左手に沼。沼といっても湖のよう。一級河川手賀沼との標識。利根川の支流のようですね。葦の茂みから鳥の声。ほとんど途切れることなく。白鳥が水面に。あれ？日本で越冬して北に帰る渡り鳥のはずだけど。

「おなかがすいてきた～」との声。それと同時に川魚割烹旅館「銚子屋」が見えてきた。正確な腹時計とプラン作成の素晴らしさに感動して、ここでランチ。予め手配されていたピーナツ味噌から揚げ定食、うな玉定食、鰻柳川定食の3種類。お座敷に上がっていただきました。ご馳走様！



柳川定食(うなぎ)



味噌ピー唐揚げ定食

「銚子屋」で合流した W 田さん、「成田線『きおろし』駅で降りた。きおろしって『木下』って書くんですね。」地名って面白い。

もう1件面白い地名。「安食ト杭」という交差点の標識。M 野さん、「『あじきぼっくい』って読めない～」に同感。



うな玉定食



その後北印旛沼。沼岸の風景は緑に囲まれていて、心和む。

途中、自由走行の時間。ロードの方々はず〜っと先に行きました。飛ばしたかったんですね～。このとき発電機付き小径車の M 山さんにクロスの私についていけず。ベテランの方はやっぱり違うな〜と感嘆！



次に素晴らしい田園風景を2枚。説明はいらないですね。



西印旛沼を抜けて、佐倉ふるさと広場に。ここでしばらく休憩。大きなオランダ風車が遠くから目立つ。風車の建物の中に入った人も。



佐倉駅到着。そこで、「デイバックを忘れた！」との声。メンバーの皆さんの反応が凄かった。今回のリーダーN 川さんをはじめ、メンバー全てがその解決に向けて即座に動き出した。その速さと言ったら。対策本部(?)を統括する人、一緒にデイバックを探しに行く人、忘れてきた場所に電話で問い合わせる人、電話が繋がらないのを見て他の連絡方法を探しに行く人。デイバックの所在が心配ではあるが、心温まる情景。YMCC すごいっ！！と感動。ほどなく、探しに行った二人から「デイバック見つかった」との電話。思わず湧き起こる拍手。よかった～！！戻ってきたお二人の輪行準備が整うのを待って、居酒屋「みのる」にて反省会。

帰りの電車でも、反省会は続く。1.5 時間で横浜。お疲れ様。今日も充実した一日をありがとうございました。メンバーの皆さんに心より感謝。

今回の写真はT さんと、T 桑さんにいただきました。走行しながらの撮影は難しいと思います。隊列を組んだ写真も、なかなか見応えがありました。T さん、T 桑さんありがとうございました。

レポート(N 久)

幸せを感じる時

「野草の(花の)名前を覚えること」が私の趣味の一つです。名前を覚えるために、その特徴を調べ、写真を撮ります。思い込みが強いので、時々まわりに迷惑をかけます。輪行をすると色々な土地に行くので、家の近くにはない野草に会うことができます。野生のセンブリ(千振り)に出会えた時には、うれしくて YMCC のホームページで報告しました。ヤマトリカブト(山鳥兜)に会った時は、場所が特定できないように注意しながら、周りの人に話しました。自転車に乗りながら、野草の(花の)名前を特定するのは難しいので、自転車から降りて確認するのですが、グループランの時は、後ろ髪を引かれる思いで、確認せずに花を後にすることもあります。

今回のクラブランは晩春の利根川路です。広々と開けた河川敷や田園地帯なので、住宅地と違う楽しみがあります。

まず目についたのが、白い小花をたくさんつけた灌木です。サイクリングロードから河原に向かって点在しています。木苺だったら食べたいなと思いましたが、サイクリングロードから確認できる距離にはありませんでした。道路際に似た花が出てきましたが、ウノハナ(卵の花)でした。ちょっと違うようです。最後まで確認できなかったのですが、多分ノイバラ(野茨)だったのではないかと考えています。タニウツギ(谷空木)の赤白の花も咲いていました。

地面に目を落とすと、アカツメクサ(赤詰め草)の赤い花、白詰め草の白い花、ニワセキショウ(庭石菖)の青紫の花、ウマゴヤシ(馬肥やし)の黄色の花があり、遠くに目をやると畑の中にキショウブ(黄菖蒲)の黄色が点在しています。時々大輪の薔薇も咲いています。世話をする人がいるのでしょう。花を愛する人が多いのだなと幸せを感じる時間です。

シチュエーション

最後の休憩所でリュックを忘れてしまいました。気付いたのは終点についてから。休憩所は数キロメートル離れています。時間は4時半。5時に休憩所が閉店になります。リュックの中には、個人情報満載の財布が入っています。

対策案はいくつもあると思いますが、大別すると次の2つになると思います。

案-1

個人情報が悪用されると被害が甚大、財布の中には明日からの生活にかかせないものもある。グループと分かれて今すぐ引き返す。

案-2

焦って引き返すと交通事故等のリスクが大きい。休憩所に電話してリュックの所在を確かめ後日取りに行く。

私が取ろうとしたのは、もちろん案-1。さすがにグループメンバーは案-2。シチュエーションにもよるが、リスクの大きさとリスクの頻度の両面から判断する必要がある。リスクの大きさとリスクの頻度を過小評価した時は、たいていみじめな結果となる。今回リーダーが下した判断は正しかったのだろうか？ 私の取った行動は正当化されるのだろうか？

私の取った行動

電話が通じなかったこと。道をよく知っているリーダーと一緒に付きあうと言ってくれたこと。この二つから引き返すことにしました。休憩所は閉店直後で中に人がいて開けてくれました。リュックは私が置いた場所にありました。私は閉店に間に合うようあせっていましたが、リーダーの前へは出ないと決めていました。冷静なリーダーの先導があったからこそ、無事休憩所にたどり着けたと思っています。感謝。

総括(〇湖)

N 川さんによる企画は、手賀沼・印旛沼を利根川で結ぶものです。「クラブランは、当会会員のだれもが無理なく走れるもの」という基本的な方針に基づきご提案をいただきました。

N 川さんは単独でよく走っておられるので、豊富な走行体験からクラブランに適するコースを選んでいただきました。

今回の道筋は地形の起伏も少なく、行程の大部分は自転車道なので、安全面でもよろしいといえましょう。自転車道はサイクリストと歩行者との共存を意識して走ることが肝要です。

サイクリングと食事とは切り離せない要素です。N 川さんはあらかじめ昼食場所を用意し、人数分の料理を予約してくださいました。昼食会場「銚子屋」では利根川名産のうなぎ、千葉県特産の落花生などを食材とした郷土色豊かな味覚を楽しみました。温かい料理に満腹になって、午後からもわたしたちはとても豊かな気持ちでサイクリングすることができました。

開催に先立ち、N 川さんから相談をお受けしました。おかげさまで参加希望者が 17 名にもなりましたので、走りかたとしてグループ分けが必要かとのことでした。この相談にはわたしも同感に思いましたので、安全走行のために 3 班構成にすることをご提案しました。

各班の先頭に練達のリーダーを置き、その後尾にも同様に熟練者を配置します。総勢が一行に連なって走ると、この列はおおよそ 50 メートルもの長さになります。この体勢で一般道路を行けば、交差点を通過する際に、列のどこかでほぼ確実に赤信号停止することになります。

このときの停止発進は各人の判断を求めますが、班の仲間に気を配って補助的に指揮することも必要です。班の先頭、後尾の熟練者にはこの役割を担っていただくわけです。

このような護送船団のように進む形態を「管理走行」方式と呼ぶそうです。わたしは当クラブでこの走りかたはいずれ卒業したいと考えます。当クラブの会員は「自立したサイクリスト」でありたい。サイクリングとは自ら企画し催行すること、そしてたのしく走って無事に帰宅することだからです。

つまり会員の誰もが、N 川さんのように自在に安全に走ることを実現したい。そして会員の誰もがクラブランを企画し、多くの会員のために安全にたのしく催行していただくことを目標としたいと考えます。